

結果の概要 中学校社会

全体的な傾向

- 内容領域別にみると、第1学年「我が国の歴史上の主な事象」、第2学年「近世までの日本」、第3学年「世界と比べてみた日本」「歴史の流れと地域の歴史」「古代までの日本」「現代社会と私たちの生活」については、正答率が60%を上回っている状況がみられる。
- 「近現代の日本と世界」の領域は、他領域に比べて正答率が低い状況がみられる。
- 観点別にみると、第2・3学年とも、社会的事象への関心・意欲・態度は高い状況にある。
- 選択式の問題に比べ、記述式・論述式の問題の正答率が50%を下回る割合は、高い状況にある。

1 出題のねらい

- ①昨年度の課題を踏まえ、「地理的分野」では、時差や都道府県に関する知識をもとに地図から読み取る問題、「歴史的分野」では、図や資料などから時代の特色を考察し判断する問題、とりわけ第1学年では体験的な学習を想定した問題を作成した。
- ②過去2年間に出题できなかった内容についても各分野から出題した。
- ③昨年度と同様に図や資料の提示、文章で表現する問題など、社会的事象を多面的・多角的に考察する能力、思考力・表現力、資料活用能力などをみることができるよう、出題を工夫した。

2 学年別結果の概要

【第1学年】

内容領域	正答率
小6「我が国の歴史上の主な事象」	62.3%
小6「我が国の政治の働き」	25.1%
小6「世界の中の日本の役割」	58.3%
地理「世界と日本の地域構成」	58.1%
歴史「古代までの日本」	38.8%

【第2学年】

内容領域	正答率
地理「世界と日本の地域構成」	58.6%
地理「地域の規模に応じた調査」	53.9%
歴史「古代までの日本」	55.3%
歴史「中世までの日本」	49.5%
歴史「近世までの日本」	64.2%

【第3学年】

内容領域	正答率
地理「世界と日本の地域構成」	59.6%
地理「地域の規模に応じた調査」	58.7%
地理「世界と比べてみた日本」	62.9%
歴史「歴史の流れと地域の歴史」	75.2%
歴史「古代までの日本」	67.1%
歴史「中世までの日本、近世までの日本」	53.4%
歴史「近現代の日本と世界」	48.5%
公民「現代社会と私たちの生活」	66.5%

評価の観点	正答率 (%)		
	1年	2年	3年
社会的事象への関心・意欲・態度	56.1	60.2	69.5
社会的な思考・判断	58.8	57.0	51.2
資料活用 of 技能・表現	56.2	55.0	60.0
社会的事象についての知識・理解	55.2	55.6	58.6

3 今回のテスト結果からみた特徴

- 日本国憲法の原則（第1学年²）は正答率が低く、定着状況に課題があるものの、昨年度の類似問題と比較すると改善がみられる。
- 時差の問題（第1学年⁴、第3学年¹）に関しては、第1学年の正答率は50%を越えるが、第3学年の正答率は低い。
- 地形図の縮尺に関する問題（第2学年³、第3学年²）は、正答率が低い状況にある。
- 都道府県などを基にして日本の地域構成を地図上で大観させる問題（第1学年³）は、他の問題に比べて正答率が低い状況にある。
- 歴史の大まかな流れをもとに判断する問題（第2学年¹⁰、第3学年⁸）は、他の問題に比べて正答率が低く課題がみられる。
- 身近な地域に関する歴史的事項に関する問題（第1学年¹、第3学年⁵）は、他の問題に比べて第1学年で正答率が低く、第3学年で正答率が高い状況にある。